認知症（Dementia）

市川治療室 NO.359.2018.06

高齢者（65 歳以上）人口が総人口に対して占める割合を高齢化率と言います。世界の公的機関（世界保健機構や国連など）の定義では、高齢化率が７％を超えた社会を「高齢化社会」、14%を超えると「高齢社会」、21％を超えると「超高齢化社会」とされます。

日本が「高齢化社会」になったのは 1970 年（今から 48 年前）で、次の段階「高齢社会」には 1994 年（今から 24 年前）です。現在は、高齢化率が 21% を超えた 2007 年から「超高齢化社会」状態に入っています。

高齢化社会から高齢社会になる期間（時間）は、日本は 24 年でした。ﾄﾞｲﾂは 42 年、ﾌﾗﾝｽは 114 年ですから日本では高齢化のｽﾋﾟｰﾄﾞが超高速ということになります。

ちなみに日本の高齢化率が一番低かったのは高齢化率が 4.7％だった 1935 年（今から 83 年前）と記録されています。

日本の高齢化理由は、医療技術の進歩や栄養改善による死亡率の低下や平均寿命の延伸が考えられています。

2016 年のﾃﾞｰﾀですが、世界の高齢化ﾄｯﾌﾟ 3 は、高齢化率 25.56％の日本、22.71%のｲﾀﾘｱ、21.27%のﾄﾞｲﾂとなります。高齢社会は先進国の特徴とも言えます。

認知症の二大原因は、ｱﾙﾂﾊｲﾏｰ病や脳血管性疾患などの病気と高齢と言われていますが、総人口の 25%が高齢者（人口の 4 人に一人が 65 歳以上）となった日本では「認知症」がありふれた病気の一つとされる理由でもあります。

2014 年、ﾗｯｼｭ・ｱﾙﾂﾊｲﾏｰ病ｾﾝﾀｰ（ｱﾒﾘｶ・ｼｶｺﾞ）が神経学会誌で「心疾患と癌に次いでｱﾙﾂﾊｲﾏｰ病は死因の三番目」と発表しました。

ｱﾙﾂﾊｲﾏｰ病は認知症の原因の一つと考えられていますが、ｱﾙﾂﾊｲﾏｰ病により起こる脳の変化は嚥下や呼吸、心拍などの機能低下にも影響します。例えば死亡原因として有名な肺炎では、肺炎から回復できずに死亡した場合、死因は「ｱﾙﾂﾊｲﾏｰ病」と考えられるということです。

いずれにせよ、世界で断然ﾄｯﾌﾟを走る超高齢化社会の日本では、高齢者の増加に比例して認知症の人口も増えているのが現状です。認知症という病気は、必ず進行していくものですし、根本的な治療方法がないのも現状です。

であるならば、認知症の予防や進行抑制のために「認知症に対する知識」が必要不可欠と思います。

…次月に続く